令和８年度秋入学

# 岩手医科大学大学院医学研究科
# 修士課程・博士課程

# 学　生　募　集　要　項

≪　一　般　選　抜　≫

≪社会人特別選抜≫

Iwate Medical University

*Student guidelines for applicants*

*2026*

# 目　　次

## ≪修士課程≫

大学院医学研究科学生募集要項 ----------

大学院医学研究科概要 ----------

修士課程 専攻・分野 ----------

入学願書 ----------

履歴書・健康状況申出書 ----------

志望理由書 ----------

受験票 ----------

## ≪博士課程≫

大学院医学研究科学生募集要項 ----------

大学院医学研究科概要 ----------

博士課程 専攻・分野 ----------

入学願書 ----------

履歴書・健康状況申出書 ----------

志望理由書 ----------

受験票 ----------

## ≪共通≫

岩手医科大学大学院入学制度の概要 ----------

長期履修学生取扱規程 ----------

# 岩手医科大学大学院医学研究科

# 修 士 課 程

※仕切り紙：桃色（ピンク）の用紙を使用

# 令和８年度秋入学　岩手医科大学大学院医学研究科 学生募集要項
## ≪ 修 士 課 程 ≫

1. 募集人員　若干名（社会人特別選抜を含む募集人員）

| 専　攻 | 分　野 | |
|---|---|---|
| 医　科　学 | 先端医科学群 | 発生生物学<br>組織学<br>生体システム情報学<br>医用分子生物学<br>医科薬理学<br>生体防御学<br>ゲノムコホート研究学<br>画像医学<br>臨床検査医学・感染症学<br>災害医学<br>システム医学 |
| | 応用医科学群 | 法医中毒学<br>環境・予防医学<br>消化器・代謝・血液病学<br>循環器・呼吸器病学<br>神経・運動・皮膚・感覚器学<br>周産期・成長発達科学<br>腎・泌尿・生殖器学<br>臨床精神科学<br>地域総合医学<br>分子診断病理学<br>リハビリテーション医学<br>睡眠関連医療技術分野<br>遺伝カウンセリング学<br>緩和医療学<br>放射線腫瘍学 |

※志願者は専攻分野を第三志望まで選ぶことができます。

※出願にあたり、志願者は予め第一志望の分野責任者と連絡を取り、研究テーマ等についての説明を受けてください。※なお、分野責任者への事前連絡でお困りの際は、医学部教務課(019-651-5110 内線5511・5512)までご相談ください。

2. 出願・入学資格

出願・入学できるのは次の各号のいずれかに該当する者です。

(1) 大学を卒業した者（令和８年９月卒業見込者を含む）

(2) 学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 104 条第４項の規定により学士の学位を授与された者

(3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込の者

(5) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）

(6) 大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了し、本学の大学院において所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者

(7) 本学の大学院において個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で22歳に達した者

(8) その他、本大学院が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

備考（1）社会人特別選抜への出願は、上記「2. 出願・入学資格」の各号のいずれかに該当し、医療関係分野、官公庁、企業等に就業あるいは就業予定者です。

（2）社会人特別選抜での入学者に関しては、就業等の事情を勘案の上、カリキュラムを編成します。

（3）入学資格等に関してのご質問は医学部教務課までお問い合わせください（例：医療従事者（国家資格を有する者）で実務経験年数が 2 年以上の方々など）。なお、場合によっては個別に入学資格審査等を実施し対応させていただきますので、出願期間の 1 ヶ月前までにはご連絡ください。

## 3. 出願期間

| 出願期間 |
| --- |
| 令和 8年 7月13日（月）～ 令和 8年 7月 31日（金）　※17時必着 |

## 4. 出願手続

出願にあたり、志願者は予め第一志望の分野担当責任者と連絡を取り、研究テーマ等についての説明を受けてください。下記(1)～(9)が出願書類です。

(1) 入学願書（11頁）

(2) 履歴書・健康状況申出書（13頁）

(3) 志望理由書（15頁）

(4) 成績証明書・卒業（見込）証明書（出身学校（学部）長の発行する所定様式の証明書）

(5) 写真**2枚**（出願3ヶ月以内に撮影したもの）

**※無帽、上半身、正面、縦3cm×横3cmで裏面に氏名記入**（うち1枚は入学願書に貼付して提出）

(6) 入学検定料（40,000円）　※郵送の場合は、現金書留で送付すること。

(7) 受験許可書または在職証明書（様式任意）

**※社会人特別選抜での出願者のみ提出（本学勤務者は不要）**

※出願時に医療関係分野、官公庁、企業等に在職中の方若しくは就業予定の方は、当該所属長の受験許可書を提出すること。なお、**入学式以降に在職証明書の提出をもってこれに代えることができる。**

(8) 受験票（17頁）

(9) 長期履修申請書（42頁）**※希望者のみ入学願書と併せて提出**

**※郵送により出願する場合は、必ず書留郵便とし、封筒に「大学院医学研究科入学願書在中」と朱書すること。**

## 5. 試験期日及び試験場

≪一般選抜≫

令和 8年8月19日（水）

| 区分 | 時間 | 試験場 |
|---|---|---|
| 英 語 試 験 | 10：30～12：00（90分） | 矢巾キャンパス本部棟２Ｆ大堀記念講堂 |
| 面 接 試 験 | 13：00～ | 第一志望の分野の研究室等 |

≪社会人特別選抜≫

令和 8年8月19日（水）

| 区分 | 時間 | 試験場 |
|---|---|---|
| 英 語 試 験 | 10：30～12：00（90分） | 矢巾キャンパス本部棟２Ｆ大堀記念講堂 |
| 小　論　文 | 13：00～14：00（60分） | 同上 |
| 面 接 試 験 | 14：30～ | 第一志望の分野の研究室等 |

## 6. 試験当日の注意事項

（1）志願者は、**試験開始20分前までに**試験場（矢巾キャンパス本部棟２Ｆ大堀記念講堂）に集合してください。

（2）英語試験は、辞書の持ち込みを認めます**（但し、医学辞書及び電子辞書は不可）**。

## 7. 合格の決定及び発表

（1）合格者の決定

学科・面接試験及び出身大学等の成績を総合して判定します。

（2）合格者の発表

| 日時 | 発表方法 |
|---|---|
| 令和 8年9月9日（水）18時頃 | 本学ホームページに合格者の受験番号を掲載するほか、本人宛に合格通知書及び入学手続書類を郵送します。 |

## 8. 入学手続

合格者は、入学手続書類を下記期間内に提出してください。なお、**期間内に手続が完了されない場合は、入学の意思がないものとみなします。**

| 入学手続期間 |
|---|
| 令和 8年 9月 14日（月）～ 令和 8年 9月18日（金） |

## 9. その他

（1）受理した出願書類及び入学検定料は、いかなる事由があっても返還いたしません。

（2）出願に際し提出された個人情報については、機密保持の原則に従って厳格に取り扱い、合否の判定に係ること、合格通知の発送、入学後の学籍情報以外の目的には使用しません。

（3）入学試験に合格し、入学手続完了後（学納金納入後）止むを得ない事由により入学を辞退する場合は、納入金を返還しますので、令和 8 年 9 月 24 日（木）17 時までに「入学辞退届」と「学納金等返還願」を提出してください。

（4）受験上および修学上の合理的配慮については、次の受験生サイトをご確認ください。

受験生サイト≫　https://www.imu-admission.jp/hairyo

## 10. 学生募集要項のダウンロード

大学院医学研究科学生募集要項は、本学ホームページからダウンロードできます。下記書類の提出に際しては、指定の用紙サイズ（A4 サイズ）を遵守してください。

（1）入学願書

（2）履歴書・健康状況申出書

（3）志望理由書

（4）受験票

※岩手医科大学ホームページ　https://www.iwate-med.ac.jp/

## 11. 出願・入学手続場所（お問い合わせ先）

岩手医科大学 医学部教務課 大学院担当

住　　所：〒028-3694　岩手県紫波郡矢巾町医大通1-1-1

電話番号：019-651-5110（内線5511・5512）

≪医学部教務課窓口受付時間≫

8時30分から17時まで（但し、第1・4土曜日は12時30分までとし、第2・3・5土曜日、日曜日及び祝日は除く）

# 岩手医科大学大学院医学研究科概要
## ≪ 修 士 課 程 ≫

### 1. 入学者受入方針（アドミッションポリシー）

本学大学院学則では「医学、歯学及び薬学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的及び使命とする」と謳っています。医学研究科では、これを踏まえ、高い研究能力と地域医療の実践能力を有する人材の育成を目指しています。

医学研究科修士課程では、医学及び医療に関する専門知識や技能・技術を修得するための教育が行われます。基本的に四年制大学を卒業した方を対象とし、地域医療に貢献する生命科学研究者、あるいは、研究活動を行いつつ高度医療技術者をめざす人を求めています。

医学研究科入学試験には、一般選抜、社会人特別選抜および外国人留学生特別選抜があります。

一般選抜では、外国語試験によって国際的な研究水準及び研究成果の発信に必要な語学力を有することを確認します。さらに、修士課程では面接試験によって、最先端の医学や医療を担っていくための研究意欲を有するかどうかを確認します。

社会人特別選抜では、上記に加えて、働きながら教育を受け、研究に従事する強い意志を有することを、小論文試験によって確認します。

外国人留学生特別選抜では、学力検査および書類審査によって、国際的な研究水準および研究成果の発信に必要な語学力を有することを確認し、さらに、修士課程では最先端の医学や医療を担っていくための研究意欲を有するかどうか、博士課程では先進的な研究に必要な専門領域の知識・技能の基礎的な力の有無と、研究継続能力と意思があるかどうかを判断します。

なお、入学者の受け入れにあたっては、民族、宗教、国籍、性別および性的指向などを問わず、多様な人材を募集します。

### 2. 修業年限

2 年（標準修業年限）

※ただし、優れた研究業績をあげたと認められた者については、1 年以上在学すれば足りるものとします。

### 3. 組織及び専攻分野の内容

別表（7～9頁）のとおりです。

### 4. 履修の方法

学生は、所定の期間内に専攻分野の責任者の指示により、次に定める科目を合計 30 単位以上取得しなければなりません。単位取得の認定は、シラバスに掲載の各科目「評価方法」を確認してください。

(1) 課程修了までに、基礎科目 6 単位以上、専門分野教育 24 単位以上(研究特論 20 単位以上、特別研究 4 単位)の合計 30 単位以上の修得が必要です。

(2) 各科目の履修にあたり、指導教員等と相談の上、指定期日までに履修申請書を提出し、申請の通りに履修してください。

## 5. 昼夜開講（大学院設置基準第14条による教育方法の特例）による履修及び研究

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっており、社会人が最新の医学知識・技術を学び、高度な医学研究能力を身に付けることを可能にするため昼夜開講制を採用しております。

昼夜開講制とは、夜間（18 時～21 時 10 分）や特定の時間（時期）に授業・研究指導の時間を設け、社会人が大学院の授業、研究指導をより受け入れ易くするための制度です。

(1) カリキュラムは、夜間、土・日及び社会人の多くが休暇等をまとめてとり易い夏季・冬季休暇期間等に設定し、単位を修得しやすいように配慮します（授業科目の履修は研究指導教員と十分話し合い、その指示を受けてください）。

(2) カリキュラムについてご不明の点は医学部教務課までご相談ください。

| 時限 | 授業時間 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 8：50　～　10：20 | 通常の授業時間帯 |
| 2 | 10：30　～　12：00 | |
| 3 | 13：00　～　14：30 | |
| 4 | 14：40　～　16：10 | |
| 5 | 18：00　～　19：30 | 特例による授業時間帯 |
| 6 | 19：40　～　21：10 | |

※　大学院設置基準第 14 条

大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

## 6. 学位授与

本研究科に 2 年以上在学し、所定の科目を履修して研究科の定める単位を取得し、学位論文を中心とした研究発表会及び論文審査に合格した者に対して修士（医科学）の学位を授与します。

## 7. キャリアパス

大学院修了後の進路相談窓口として、入試・キャリア支援課を設置しています。

## 8. 学納金

学納金は次のとおりです。

(1) 授業料　　375,000円（年額）

(2) 施設整備費　　300,000円（入学時のみ。本学出身者からは徴収しません。）

・授業料については、二回に分割納入することができます。

・入学年度に授業料分割納入する場合は初回487,500円（施設整備費を含む）、二回目187,500円を納入してください。

・平成27年度以降に入学した学生より、入学金を廃止しました。

・平成23年度以降に入学した学生より、授業料を大幅に引き下げています。

## 9. 奨学金制度

日本学生支援機構大学院奨学金及び岩手医科大学大学院奨学金（月額25,000円）の制度があります。

別表1（第3条関係）

## ＜修士課程＞　医科学専攻　先端医科学群 Advanced Medical Science ／ 応用医科学群 Applied Medical Science

| 専攻 | 領域 | 分野 ／ コース | 人材育成の目標（目的） | 責任講座・分野 |
|---|---|---|---|---|
| 医科学専攻 Medical Science | 先端 | **発生生物学** Developmental Biology | 系統発生学的見地からヒトの個体発生と臓器形成の基本概念について学び、ヒトの特徴を理解することで、医科学研究に貢献できる人材を育成する。 | 解剖学講座　人体発生学分野 |
| | 先端 | **組 織 学** Histology | 組織学あるいは細胞生物学における形態学的な手法を修得し、基礎生物学の知識と考え方を学びこれを活かすことのできる人材を育成する。 | 解剖学講座　細胞生物学分野 |
| | 先端 | **生体システム情報学** Integrative Physiology | 基本的な細胞内情報伝達経路とその機構、細胞間情報伝達、システムとしての内臓臓器や脳における情報伝達と機能制御機構について学ぶ。即ち、脳・感覚器の各部位の機能発現の基盤となる神経シグナル伝達の機構並びに神経回路網の活性化と脳の高次機能（意識、記憶、学習）発現について解説する。また、各種臓器（器官）のシステムとしての生体制御機構について学ぶ。 | 生理学講座　統合生理学分野 |
| | 先端 | **医用分子生物学** Medical Molecular Biology | 遺伝子の発現調節機構と個体のホメオスタシスの維持機構を分子レベルで理解し、さらに分子生物学的手法を身につけることにより、それらの知識・経験を実際の医療の現場や研究で利用できる人材を育成することを目標とする | 生化学講座　分子医化学分野 |
| | 先端 | **医科薬理学** Medical Pharmacology | 細胞、分子レベルでの生体内部におけるシグナル伝達機構及び、薬物の作用に関する研究知識を習得し、薬理学的研究に貢献できる人材を育成する。 | 薬理学講座　情報伝達医学分野 |
| | 先端 | **生体防御学** Microbiology and Immunology | 医学的に重要な微生物および免疫反応について系統的に学び、感染症の診断・治療・予防に役立つ人材を育成する。 | 微生物学講座　感染症学・免疫学分野 |
| | 応用 | **法医中毒学** Forensic Toxicology | 法医中毒学に関する専門的知識を有し、法医中毒検査、研究を遂行できる人材を育成する。 | 法科学講座　法医学分野 |
| | 応用 | **環境・予防医学** Environmental and Preventive Medicine | 21世紀の社会は環境が重要なキーワードとなる。特に環境の変化と健康のつながりを理解することは、予防医学の実践において意義が深い。環境を地球環境と身近な環境に分け、環境の変化と健康変化の関係について学ぶ。また、各種疾病の病因論解明における疫学の役割を理解し、既存の病因論や関連論文を疫学的に評価・理解できる素養を養う。各種の疾病が自然条件以外にも社会・文化的条件の影響を受けて発生し経過することを学ぶ。疾病の発生や悪化を予防することの重要性、即ち医学における予防医学の必要性を理解する。 | 衛生学公衆衛生学講座 |
| | 先端 | **ゲノムコホート研究学** Genome Cohort Study | 東北メディカル・メガバンク計画の概要およびいわて東北メディカル・メガバンク機構の役割を理解するとともに、臨床研究、コホート研究、ゲノム研究の基礎およびゲノム情報やスーパーコンピューターのセキュリティについて学習し、ゲノムコホート研究の基礎技術を習得する。<br>さらにオミックス情報と臨床情報を体系的に統合する手法について学び、多様な生体情報を臨床研究に活かせる人材、また医師主導型臨床研究と基礎研究に貢献できる人材を育成する。 | 衛生学公衆衛生学講座 |
| | 応用 | **消化器・代謝・血液病学** Gastroenterology, Metabology and Hematology | 消化管、肝・胆・膵疾患、代謝疾患や内分泌疾患ならびに血液疾患の病因、病態生理、症候、画像、臨床検査、診断、鑑別疾患、治療および予後などについて総合的かつ系統的な知識の修得をはかり、これら疾患全体の診療と治療に関する思考能力を修練させる。 | 内科学講座　消化器内科分野 |
| | 応用 | **循環器・呼吸器病学** Cardiology and Respirology | 呼吸・循環系は、生体のエネルギー産生に必要な酸素を組織に供給する上で、欠くべからざる臓器である。これらの臓器の不全は、生命活動を容易に障害し、直接生死を左右する。このため呼吸器・循環器の医療は救急医療を含めて、生命維持の根幹をなす極めて重要な部門である。生命の危機管理の指標となる Vital Sign の中に呼吸・循環器に関する項目が少なくないのもこのためである。よって全ての医療関係者に求められる呼吸器・循環器領域全般の基本知識、病態生理学の基本、臨床薬理、さらには外科的対応（治療法）について講義し、充分な理解と共に、その応用力と実践力を養う。 | 内科学講座　循環器内科分野 |
| | 応用 | **神経・運動・皮膚・感覚器学** Central Nervous System, Motor and Sensory System | 神経系、運動器、感覚器の代表的疾患について、内科学的、外科学的な基本的知識を学び、その知識を基に実践につながる応用力、未解明分野を研究する力を身につける。 | 内科学講座　脳神経内科・老年科分野 |

別表1（第3条関係）

## ＜修士課程＞　医科学専攻　先端医科学群 Advanced Medical Science ／ 応用医科学群 Applied Medical Science

| 専攻 | 領域 | 分野 ／ コース | | 人材育成の目標（目的） | 責任講座・分野 |
|---|---|---|---|---|---|
| 医科学専攻 Medical Science | 応用 | **周産期・成長発達科学** Perinatology/Growth and Developmental Pediatrics | | 成長と発達の途上にある小児を対象として、その身体と心の問題を取り扱うので、その領域は極めて広く、胎児期、新生児期から思春期までのすべての医学領域の知識が求められる。そのため、妊娠、分娩、産褥の生理、病理はもとよりそれに関連して胎児、新生児さらには思春期までの生理的、内分泌学的知識をも習得する。下記の研究テーマについて、関連医学知識と研究方法を習得する。<br>1. 胎児の発達・発育評価に関する研究<br>2. 出生前診断に関する研究<br>3. 新生児の呼吸循環適応とその異常に関する研究<br>4. 肺サーファクタントの研究<br>5. 小児の成長と神経発達の研究<br>6. 小児の心理学的発達の評価に関する研究 | 小児科学講座 |
| | 応用 | **腎・泌尿・生殖器学** Urology and Reproductive Technology | | 腎尿路および男性生殖器の解剖および機能について理解すると共に、そこから発症する先天的あるいは後天的な疾患について知識を深める。腎尿路・男性生殖器の悪性腫瘍は、発生臓器によりその生物学特性が異なっており、治療法や治療後の管理法について学ぶ。先天性腎尿路疾患は小児期・青年期における腎不全の原因疾患として最も重要であり、その早期診断や腎障害進展予防について理解を深める。腎不全は腎機能の廃絶により起こるが、その原因は多様であり、治療法も血液透析、腹膜透析、腎移植などがある。腎機能保全のための治療法や透析・腎移植について知識を深める。女性の外性器および内性器より発生する腫瘍の生物学的性格をよく知りその診断、治療さらには治療後の管理の考え方について知識を深める。また、生殖および妊娠の経過、さらにはされに続く分娩、産褥と胎児、新生児との関連性について、生理、内分泌学的知識を習得する。さらに産婦人科的内分泌臓器の特徴をよく知り、その内分泌学的動態についても学ぶ。 | 泌尿器科学講座 |
| | 応用 | **臨床精神科学** Clinical Psychiatry | | 1）精神機能と精神症状、2）精神障害の概念、病態と治療、3）臨床精神医学の需要領域（臨床精神医学、小児精神医学、コンサルテーション・リエゾン精神医学、地域精神医学、災害精神医学等）、4）基本的研究手法について学び、精神科臨床の先導的人材を育成する。 | 神経精神科学講座 |
| | 先端 | **画像医学** Diagnositic Imaging | | CTやMRIなどのコンピュータ断層撮影の撮影（像）法や画像処理法の基礎と応用について学び、臨床に役立つ画像情報とは何かについて探求できる人材を育成する。 | 放射線医学講座 |
| | 先端 | **臨床検査医学・感染症学** Laboratory Medicine | | 臨床検査医学では、①臨床検査全般（検体検査、生理検査、超音波検査）、②予防医学（人間ドック・健康診断）、③呼吸器疾患（肺サーファクタントや気管支喘息）、④輸血・細胞治療学（自己血輸血と副作用対策）、⑤先天性凝固異常の遺伝子解析、⑥感染制御、⑦抗菌薬適正使用推進の中から興味のあるテーマを選び、研究できる研究者を育成する。 | 臨床検査医学・感染症学講座 |
| | 先端 | **災害医学** Disaster Medicine | | 災害医学全般を理解し、実際の災害時において災害現場、被災病院、災害対策本部等で従事できる人材を育成する。東日本大震災など以前の災害の医療活動を総括し、今後の大規模災害に対応できる仕組みを構築し学ぶ。 | 救急・災害医学講座 |
| | 応用 | **地域総合医学** Community Health Care | **地域総合診療医学コース** Community General Medicine | 超高齢社会を迎え，我が国の医療提供体制は劇的に変化している。疾患単位で治癒をめざす専門医療と全人的に捉え幅広く対応できる総合診療の協働が強く求められるようになった。超高齢社会は我が国のみならず全世界的課題にもなっている。医療を取りまく劇的環境変化の中で地域医療を守るべく，社会的背景，医療経済，医療法制，多職種連携，医療資源の偏在などの課題を把握し，課題解決に繋がる研究を実践し，研究方法を修得する。 | 総合診療医学講座 |
| | | | **保健医療福祉コース** Healthcare and Welfare | 地域包括ケア社会において多職種連携をより一層推進するためには、各専門職が高度な専門知識と最新の知見を修得し、さらには関連医学知識の修得が求められる。本コースでは、医療職だけでなく教育・保育・福祉などに従事する各専門職が、地域医療の現状や課題を把握し、問題解決に繋がる研究を実践するための研究方法を修得することを通して、各職種の先導的人材を育成する。 | |

別表1（第3条関係）

## ＜修士課程＞　医科学専攻　先端医科学群 Advanced Medical Science ／ 応用医科学群 Applied Medical Science

| 専攻 | 領域 | 分野 ／ コース | 人材育成の目標（目的） | 責任講座・分野 |
|---|---|---|---|---|
| 医科学専攻 Medical Science | 応用 | **分子診断病理学** Molecular Diagnostic Pathology | 病理学は疾患の発生および形態的メカニズムを理解するために必須の学問である。腫瘍を中心に、その疾患の形態学的特徴と分子レベルの異常との関連性を明らかにすることを目的とする。実際には、免疫組織化学染色およびIn Situ Hybridizationを用いて、蛋白もしくはRNAレベルの発現異常を検出し、病理組織像との関連性を調べる。得られた知見より、複雑に構成されている腫瘍形態像の分子病理学的意義を明らかにする。 | 病理診断学講座 |
| | 応用 | **リハビリテーション医学** Rehabilitation Medicine | リハビリテーション医学において重要なことは機能を回復させ、障がいを克服させ、活動を育むことである。リハビリテーション医学全般を理解し、リハビリテーション医学についての基礎的および臨床的研究を行う。また、障がい者スポーツに関する研究を行う。 | リハビリテーション医学講座 |
| | 応用 | **睡眠関連医療技術分野** Medical Technology for Sleep Disorders and Sleep Sciences | 博士課程である、睡眠行動医学分野との連携のものに、睡眠医学に関連する医療技術（検査技術、治療技術、研究技術）について実地臨床とともに学び、睡眠医療の基盤を担う人材を育てる。具体的には、終夜睡眠ポリグラフ検査、気道陽圧療法の基礎と患者支援に関する行動医学的な支援技術を学ぶ。終了時には、CPAPセラピストや睡眠学会認定検査技師の資格取得を目指す。 | 睡眠医療学科 |
| | 応用 | **遺伝カウンセリング学** Genetic Counseling Program | 遺伝子解析技術の進歩に伴い多くの医学領域において遺伝学的な関与が明らかにされており、これまで関連性が少ないと思われていた疾患への遺伝学的解析が次々と行われるようになっている。本分野では多様化する遺伝相談（カウンセリング）内容への対応、より高度で専門レベルでの遺伝診療への対応などが可能な臨床における遺伝スペシャリストとしての認定遺伝カウンセラーの養成を目的としている。人類遺伝学・臨床遺伝学・遺伝学的情報の取り扱い・チーム医療としての遺伝医療と遺伝カウンセラーの働き方・遺伝医療に関わる生命倫理・カウンセリング技術等について習得する。<br>修士課程修了後、認定遺伝カウンセラーの受検資格を得ることができる。 | 臨床遺伝学科 |
| | 応用 | **緩和医療学** Palliative Medicine | がんの基礎科学ならびに疾患毎の治療法の概要を理解したうえで、緩和ケアについての高度な知識・技術を獲得するとともに、実践的演習を通じて、チーム医療を構成する各職種の専門性を理解し、適切なコミュニケーション、情報の共有方法、およびチームマネジメントの手法を学ぶ。 | 緩和医療学科 |
| | 応用 | **放射線腫瘍学** Radiation Oncology | 放射線物理学，生物学，診断学および腫瘍学の基礎を理解し、放射線治療に応用できる研究者を育成する。 | 放射線腫瘍学科 |
| | 先端 | **システム医学** Systems Medicine | 生命現象の定量データをシステムとして解析することで、人体のシステム破綻として疾患を理解することができる。そのために必要なデバイス・試薬の開発を通して、医学研究を社会システムへ実装する視野を持つ人材を育成する。 | 医歯薬総合研究所　創薬・医療機器開発部門 |

| 受験番号 | | ※（　一般選抜　・　社会人特別選抜　）必ず〇で囲むこと |
|---|---|---|

**令和８年度秋入学　岩手医科大学大学院医学研究科入学願書**

**≪ 修 士 課 程 ≫**

令和　　年　　月　　日

岩手医科大学長　殿

ふりがな
氏　名　　印

貴学大学院医学研究科修士課程に入学いたしたく、所定の書類を添えて出願します。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 生 年 月 日 | 昭和<br>平成　　年　　月　　日生（　　歳） | | 本籍（都道府県） | |
| 志 望 分 野 | | 領域・分野 | | 写真添付<br>(3cm×3cm) |
| | 第一志望 | 学群 | 学 | |
| | 第二志望 | 学群 | 学 | |
| | 第三志望 | 学群 | 学 | |
| 入 学 資 格 | （出身学校学部学科名） | | | |
| | 昭和・平成・令和　　年　　月　　日　　卒業・卒業見込 | | | |
| 現 住 所 | 〒　　－ | | | |
| 電 話 番 号 | | | | |
| メールアドレス | | | | |
| 入試・入学に関する書類送付先<br>※現住所と異なる場合は記入（実家・勤務先など） | 〒　　－<br>電話番号　（　　）―（　　）―（　　） | | | |
| 保 証 人 | ふりがな<br>氏　名 | | | |
| | 現住所 | 〒　　－<br>TEL　（　　）－（　　）－（　　）<br>携帯（　　）－（　　）－（　　） | | |
| | 職　業 | | | |

# 履　　歴　　書

| 区　分 | 年 | 月 | 日 | 記　載　事　項 |
|---|---|---|---|---|
| 学　歴 | | | | 高等学校卒業 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 職　歴<br>（研究歴含） | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 資　格 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 賞　罰 | | | | |

## 健康状況申出書

| | |
|---|---|
| 主　な<br>既往歴 | |
| | |
| 主　な<br>現在症 | |
| | |

# 志　望　理　由　書
## ≪ 修 士 課 程 ≫

| ふ り が な | | 第一志望分野 |
|---|---|---|
| 志願者氏名 | | |

（本大学院医学研究科及び第一志望分野の志望理由を具体的に記載してください）

岩手医科大学大学院医学研究科

※パソコン等を使用して作成する場合は、本紙に直接または、本様式に準じ別紙（A4 版）に作成してください。

# 受　　験　　票
## ≪ 修 士 課 程 ≫

| | | | |
|---|---|---|---|
| 受験番号 | ※ | | |
| 氏　　名 | | 生年月日 | 昭和<br>年　　月　　日生（　　歳）<br>平成 |
| 志望分野 | 領　域　・　分　野 | | |
| 第一志望 | 学群 | | 学 |
| 第二志望 | 学群 | | 学 |
| 第三志望 | 学群 | | 学 |

1.「※受験番号」欄以外は出願者にて楷書で記入すること。
2. 答案用紙には受験番号と氏名を明記すること。
3. この票は受験のとき必ず机上に置くこと。

入 学 検 定 料 領 収 済
医 学 部 教 務 課 長

# 岩手医科大学大学院医学研究科

# 博 士 課 程

※仕切り紙：青色（ライトブルー）の用紙を使用

# 令和８年度秋入学　岩手医科大学大学院医学研究科学生募集要項
## ≪ 博 士 課 程 ≫

### 1. 募集人員　若干名（社会人特別選抜を含む募集人員）

| 専攻 | 分　野 |
|---|---|
| 生 理 系 | 人体解剖学・発生学、組織学・細胞生物学、医化学、薬理学、<br>神経細胞生理学・システム神経科学 |
| 病 理 系 | 医科応用病原微生物学、機能病態学、分子人体病理学、腫瘍生物学 |
| 社会医学系 | 法医病理学、衛生学・公衆衛生学、医学教育学、総合臨床医学、医療安全学、<br>睡眠行動医学、臨床遺伝学、母体発達医学 |
| 内 科 系 | 消化器内科学、肝臓学、糖尿病代謝内分泌学、腎臓・高血圧内科学、循環器内科学、<br>呼吸器内科学、リウマチ・膠原病・アレルギー内科学、血液内科学、神経学、小児科学、皮膚科学、<br>神経精神科学、放射線診断学、臨床検査医学・感染症学、総合診療医学、臨床腫瘍学、緩和医療学、<br>放射線腫瘍学 |
| 外 科 系 | 外科学、脳神経外科学、心臓血管外科学、呼吸器外科学、運動器傷病学、形成外科学、<br>産婦人科学、耳鼻咽喉科学、頭頸部外科学、眼科学、泌尿器科学、麻酔学、救急医学、<br>災害医学、リハビリテーション医学、定量生物学 |

※各分野は、別表（25～28 頁）に示すとおりです。志願者は分野を第二志望まで選ぶことができます。
※志願者は予め第一志望の分野担当責任者と連絡を取り、研究テーマ等について説明を受けてください。
※**なお、専攻分野の責任者への事前連絡でお困りの際は、医学部教務課までご相談ください。**

### 2. 出願・入学資格

出願・入学できるのは次の各号のいずれかに該当する者です。

（1）大学（医学、歯学、獣医学又は薬学（6 年制）を履修する課程）を卒業した者（令和 8 年 9 月卒業見込者を含む）

（2）外国において学校教育における 18 年の課程（最終の課程は医学、歯学、獣医学又は薬学（6 年制）を履修する課程）を修了した者

（3）文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号）

（イ）旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学の医学又は歯学の学部において医学及び歯学を履修し、これらの学部を卒業した者

（ロ）防衛省設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者

（ハ）修士課程又は学校教育法（昭和22年法律第26号）第99条第2項の専門職大学院の課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期及び後期の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者（学位規則の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規則（昭和28年文部省令第9号）第6条第1号に該当する者を含む。）で大学院又は専攻科において、大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（ニ）大学（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの及び獣医学を履修する課程を除く）を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院又は専攻科において、当該研究の成果等により、大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（4）その他、本大学院が大学（医学、歯学、獣医学又は薬学（6年制）を履修する課程）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

備考（1）**社会人特別選抜は**、上記「2．出願・入学資格」の各号のいずれかに該当し、医療関係分野（臨床研修医を含む）、官公庁、企業等に就業あるいは就業予定者を対象とします。

（2）社会人特別選抜での入学者に関しては、就業等の事情を勘案の上、カリキュラムを編成します。また、研究遂行のための十分な期間を確保するため、研究に専従する期間を設けることができます。

（3）医学部卒業者以外の者は、医師の資格が必要な専攻分野（コース）は専攻できません。

## 3．出願期間

| 出願期間 |
| --- |
| 令和 8年7月13日（月）～ 令和 8年7月31日（金）　※17時必着 |

## 4．出願手続

出願にあたり、志願者は予め第一志望の分野担当責任者と連絡を取り、研究テーマ等についての説明を受けてください。下記(1)～(11)が出願書類です。

（1）　入学願書（29頁）

（2）　履歴書・健康状況申出書（31頁）

（3）　志望理由書（33頁）

（4）　成績証明書・卒業（見込）証明書（出身大学（学部）長の発行する所定様式の証明書）

**※本学医学部卒業（見込）者は不要**

（5）　修士課程修了（見込）証明書・成績証明書　**※修士課程修了（見込）者のみ提出**

（6）　医師免許等（写）　**※医師免許等取得者のみ提出**

（7）　写真**2枚**（出願3ヶ月以内に撮影したもの）

**※無帽、上半身、正面、縦3cm×横3cmで裏面に氏名記入。**（うち1枚は入学願書に貼付）

（8）　入学検定料（40,000円）　※郵送の場合は、現金書留で送付すること。

（9）　受験許可書又は在職証明書（様式任意）

**※社会人特別選抜での出願者のみ提出**

**※本学勤務者（臨床研修医及び専門研修医若しくは研修予定者を含む）は不要**

※出願時に医療関係分野（臨床研修医含む）、官公庁、企業等に在職中の方又は就業予定者は、当該所属長の受験許可書を提出すること。なお、**入学式以降に在職証明書の提出をもってこれに代えることができる。**

（10）受験票（35頁）

（11）長期履修申請書（42頁）　**※希望者のみ入学願書と併せて提出**

※　郵送により出願する場合は、必ず書留郵便とし、封筒に「大学院医学研究科入学願書在中」と朱書してください。

## 5. 試験期日及び試験場

≪一般選抜≫

令和 8年8月19日（水）

| 区分 | 時間 | 試験場 |
|---|---|---|
| 英 語 試 験 | 10：30～12：00（90分） | 矢巾キャンパス本部棟２Ｆ大堀記念講堂 |
| 専 門 試 験 | 13：00～ | 第一志望の分野の研究室等 |

≪社会人特別選抜≫

令和 8年8月19日（水）

| 区分 | 時間 | 試験場 |
|---|---|---|
| 英 語 試 験 | 10：30～12：00（90分） | 矢巾キャンパス本部棟２Ｆ大堀記念講堂 |
| 小　論　文 | 13：00～14：00（60分） | 同上 |
| 専 門 試 験 | 14：30～ | 第一志望の分野の研究室等 |

## 6. 試験当日の注意事項

（1）志願者は、試験開始 20 分前までに試験場（矢巾キャンパス本部棟２Ｆ大堀記念講堂）に集合してください。

（2）専門試験は、口答又は筆記試験により、第一志望の分野について行います。

（3）英語試験は、辞書の持ち込みを認めます（但し、医学辞書及び電子辞書は不可）。

## 7. 合格の決定及び発表

（1）合格者の決定

学科・面接試験及び出身大学の成績を総合して判定します。

（2）合格者の発表

| 日時 | 発表方法 |
|---|---|
| 令和 8年9月9日（水）18時頃 | 本学ホームページに合格者の受験番号を掲載するほか、本人に合格通知書及び入学手続書類を郵送します。 |

## 8. 入学手続

合格者は、入学手続書類を下記期間内に提出してください。なお、期間内に手続が完了されない場合は、入学の意思がないものとみなします。

| 入学手続期間 |
|---|
| 令和 8年 9月14日（月）～ 令和 8年 9月18日（金） |

## 9. その他

（1）受理した出願書類及び入学検定料は、いかなる事由があっても返還いたしません。

（2）出願に際し提出された個人情報については、機密保持の原則に従って厳格に取り扱い、合否の判定に係ること、合格通知の発送、入学後の学籍情報以外の目的には使用しません。

(3) 入学試験に合格し、入学手続完了後（学納金納入後）止むを得ない事由により入学を辞退する場合は、納入金を返還しますので、令和 8 年 9 月 24 日（木）17 時までに「入学辞退届」と「学納金等返還願」を提出してください。

(4) 受験上および修学上の合理的配慮については、次の受験生サイトをご確認ください。

受験生サイト≫　https://www.imu-admission.jp/hairyo

## 10. 学生募集要項のダウンロード

大学院医学研究科募集要項は、本学ホームページからダウンロードできます。下記書類の提出に際しては、指定の用紙サイズ（A4サイズ）を遵守してください。

(1) 入学願書

(2) 履歴書・健康状況申出書

(3) 志望理由書

(4) 受験票

※岩手医科大学ホームページ　https://www.iwate-med.ac.jp/

## 11. 出願・入学手続場所（お問い合わせ先）

岩手医科大学 医学部教務課 大学院担当

住　　所：〒028-3694　岩手県紫波郡矢巾町医大通1-1-1

電話番号：019-651-5110（内線5511・5512）

≪医学部教務課窓口受付時間≫

8時30分から17時まで（但し、第1・4土曜日は12時30分までとし、第2・3・5土曜日、日曜日及び祝日は除く）

# 岩手医科大学大学院医学研究科概要
## ≪ 博 士 課 程 ≫

### 1. 目的及び使命（アドミッションポリシー）

本学大学院学則では「医学、歯学及び薬学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的及び使命とする」と謳っています。医学研究科では、これを踏まえ、高い研究能力と地域医療の実践能力を有する人材の育成を目指しています。

医学研究科博士課程では、国際的な視野に立って先進的な研究活動に従事する者、あるいは、研究を推進しつつ医療現場で主導的役割を果たす医療人を育成します。六年制大学を卒業あるいは修士課程修了した方を対象とし、高度かつ広範な最先端の医学知識と医療技術・技能を修得しようとする人を求めています。

医学研究科入学試験には、一般選抜、社会人特別選抜および外国人留学生特別選抜があります。

一般選抜では、外国語試験によって国際的な研究水準及び研究成果の発信に必要な語学力を有することを確認します。博士課程では専門試験によって、先進的な研究に必要な専門領域の知識・技能の基礎的な力の有無と、研究継続能力と意思があるかどうかを判断します。

社会人特別選抜では、上記に加えて、働きながら教育を受け、研究に従事する強い意志を有することを、小論文試験によって確認します。

外国人留学生特別選抜では、学力検査および書類審査によって、国際的な研究水準および研究成果の発信に必要な語学力を有することを確認し、さらに、修士課程では最先端の医学や医療を担っていくための研究意欲を有するかどうか、博士課程では先進的な研究に必要な専門領域の知識・技能の基礎的な力の有無と、研究継続能力と意思があるかどうかを判断します。

なお、入学者の受け入れにあたっては、民族、宗教、国籍、性別および性的指向などを問わず、多様な人材を募集します。

### 2. 修業年限

4 年（標準修業年限）

※　但し、優れた研究業績をあげたと認められた者については、3 年以上在学すれば足りるものとします。

### 3. 組織及び専攻分野の内容

別表（25～28頁）のとおり

### 4. 履修の方法

学生は、所定の期間内に専攻分野の指導教員の指示により、30 単位以上を取得しなければなりません。単位取得の認定は、シラバスに記載の各科目「評価方法」を確認してください。

(1) 課程修了までに、共通教育科目から6単位以上、専門分野教育24単位以上(研究特論20単位以上、特別研究4単位)の合計30単位以上の修得が必要です。

(2) 各科目の履修にあたり、指導教員等と相談の上、指定期日までに履修申請書を提出し、申請の通りに履修してください。

(3) 共通教育科目の履修にあたって、各専攻分野のカリキュラムに予め共通教育科目の履修が指定されている場合がありますので、指定どおり履修してください。但し、共通教育科目の指定がないカリキュラムにあっては、指導教員と相談の上、履修科目を選択し必ず履修しなければなりませんのでご注意ください。

(4) 学生は、原則として年間２単位以上を修得するよう努めてください。

## 5. 昼夜開講（大学院設置基準第14条による教育方法の特例）による履修及び研究

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっており、社会人が最新の医学知識・技術を学び高度の医学研究（臨床）能力を身に付けることを可能にするため、昼夜開講制を採用しております。

昼夜開講制とは、夜間（18 時～21 時 10 分）や特定の時間（時期）に授業・研究指導の時間を設け、現在、地域医療に携わっている開業医や病院勤務医、医学及び関連分野の研究者等の社会人が大学院の授業、研究指導をより受け入れ易くするための制度です。

(1) カリキュラムは、夜間、土・日及び社会人の多くが休暇等をまとめてとり易い夏季休暇期間等に設定し、単位を修得しやすいように配慮します（授業科目の履修は研究指導教員と十分話し合い、その指示を受けてください）。

(2) カリキュラムについてご不明の点は医学部教務課までご相談ください。

| 時限 | 授業時間 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 8：50　～　10：20 | 通常の授業時間帯 |
| 2 | 10：30　～　12：00 | |
| 3 | 13：00　～　14：30 | |
| 4 | 14：40　～　16：10 | |
| 5 | 18：00　～　19：30 | 特例による授業時間帯 |
| 6 | 19：40　～　21：10 | |

※　大学院設置基準第 14 条

大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

## 6. 学位授与

本研究科に 4 年以上在学し、所定の科目を履修して研究科の定める単位を取得、かつ研究計画調書の作成および審査を経て、学位論文を中心とした最終試験および論文審査に合格した者に対して博士（医学）の学位を授与します。

## 7. 学納金

(1) 授業料　　425,000円（年額）

(2) 施設整備費　　300,000円（入学時のみ。本学出身者からは徴収しません。）

・授業料については、二回に分割納入することができます。

・入学年度に授業料分割納入する場合は初回512,500円（施設整備費を含む）、二回目212,500円を納入してください。

・平成27年度以降に入学した学生より、入学金を廃止しました。

・平成23年度以降に入学した学生より、授業料を大幅に引き下げております。

## 8. 奨学金制度

日本学生支援機構大学院奨学金及び岩手医科大学大学院奨学金（月額25,000円）の制度があります。

別表1（第3条関係）

## ＜博士課程＞　専門医学領域　General Medical Research　／　融合医学領域　Interdisciplinary Medical Research

| 専攻 | 領域 | 分　野　／　コース | | 人材育成の目標（目的） | 責任講座・分野 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生理系専攻 Physiological Sciences | 専門 | **人体解剖学・発生学** Human Anatomy＆embryology | | 人体の形態学の知識と科学的研究手法を習得し、人体の形成と構造に関する研究の発展に寄与でき、且つ解剖学教育を実践できる人材を育成する。 | 解剖学講座　人体発生学分野 |
| | 専門 | **組織学・細胞生物学** Histology and Cell Biology | | 細胞生物学あるいは器官・組織生理学領域における形態学的な手法を修得し、生物・医学研究分野に関する研究者として、最先端の基礎的研究に従事し、自立して研究活動を行うに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。 | 解剖学講座　細胞生物学分野 |
| | 専門 | **神経細胞生理学・システム神経科学** Neuronal Cell Biology,Systems Neuroscience | | 中枢および末梢神経系、筋、感覚器の働きについて、分子レベル、細胞レベルから探求できる研究能力、その結果を基に臨床医学を理解できる基礎力、並びに広い視野を持って医学全般を見渡すことができる人材を育成する。 | 生理学講座　統合生理学分野 |
| | 専門 | **医 化 学** Medical Biochemistry | | 細胞におけるホメオスタシスの維持機構や、様々な疾患の原因・病態・治療法を分子レベルで追究できる研究者を育成する | 生化学講座　分子医化学分野 |
| | 専門 | **薬 理 学** Pharmacology | | 細胞、分子レベルでの生体内部におけるシグナル伝達機構における研究手法を習得し、薬理学的研究を行う人材を育成する。 | 薬理学講座　情報伝達医学分野 |
| 病理系専攻 Pathological Sciences | 専門 | **医科応用病原微生物学** Applied Microbiology | | 病原微生物に対する分子生物学的・免疫学的な知識を有し、感染症の診断・治療・予防に役立つ研究ができる人材を育成する。 | 微生物学講座　感染症学・免疫学分野 |
| | 専門 | **機能病態学** Functional Pathobiology | | 肝疾患、造血器疾患、腎疾患を含むさまざまな疾患の形態診断を修得すると共に、それらの病態形成に関わる分子機構を探索・同定し、新規診断・治療法を創成できる人材を育成する。 | 病理学講座　機能病態学分野 |
| | 専門 | **分子人体病理学** Molecular Human Pathology | | 人体の構造・機能を理解し、疾病時の変化を的確に把握する能力を身に付けるため、各疾患における臓器の変化を形態学的・分子病理学的手法を用いて解析できる能力を修得する。もって、日本病理学会専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診断専門医の資格を取得できる高度臨床医を育成する。 | 病理診断学講座 |
| | 融合 | **腫瘍生物学** Tumor Biology | | がんの生物学的特性と標準的治療法を理解し、がんの克服のための先進治療・診断技術の開発に関わる研究を遂行できる人材を育成する。 | 医学教育学講座　教育支援システム開発分野 |
| 社会医学系専攻 Social Medicine | 専門 | **法医病理学** Forensic Pathology | | 法医病理学に関する専門的知識を有し、法医診断、研究を遂行できる人材を育成する。 | 法科学講座　法医学分野 |
| | 専門 | **衛生学・公衆衛生学** Hygiene and Preventive Medicine | **疫学・環境医学コース** Epidemiology and Environmental Medicine | 疫学・臨床疫学の知識を有し、自ら疫学研究および臨床疫学研究計画を立案し、リスクを評価し、予防・治療の効果を証明することができる人材を育成する。また、環境問題について、自ら客観的な評価をし、評価に基づいた対策を立案し、必要な措置を講じることができる人材を育成する。 | 衛生学公衆衛生学講座 |
| | | | **ゲノム疫学コース** Genomic Epidemiology | 生活習慣病は多数の環境要因と遺伝要因が複雑に組み合わされることにより発症すると考えられており、環境要因と遺伝要因の両方に十分な理解を得た上で、定量的に環境要因と遺伝要因の寄与の大きさを分析し、生活習慣病等の主要疾患について精度の高いリスク評価と個別的な予防戦略を構築できる人材を育成する。 | |

別表1（第3条関係）

## ＜博士課程＞　専門医学領域　General Medical Research　／　融合医学領域　Interdisciplinary Medical Research

| 専攻 | 領域 | 分　野　／　コース | 人材育成の目標（目的） | 責任講座・分野 |
|---|---|---|---|---|
| 社会医学系専攻 Social Medicine | 専門 | **医学教育学**<br>Medical Education | 医学教育における国際的な動向と最新の手法を学び、国際基準に準拠したカリキュラム作成と教育手法を実践できる人材を育成する。 | 医学教育学講座　医学教育学分野 |
| | 専門 | **総合臨床医学**<br>General Clinical Medicine | 基礎医学・臨床医学に係る幅広い知識と技術を修得し、地域の医療ニーズに対応した臨床研究が遂行可能な人材を育成する。 | 医学教育学講座　地域医療学分野 |
| | 専門 | **医療安全学**<br>Medical safety science | 医療安全はあらゆる医療に関わる有害事象の分析と対策を行うため、広範な領域に関わるばかりではなく、病院に勤務するあらゆる職種との連携が必要とされる分野です。建学精神である「誠の人間の育成」の一躍を担う医療安全への意識の高い人材を育成する。 | 医療安全学講座 |
| | 専門 | **睡眠行動医学**<br>Behavioral Sleep Medicine | 行動医学と呼吸・循環生理学を基盤とする医学を修め、新しい臨床医学分野である睡眠医学系実地臨床（診断・治療）の専門家・研究者としての知識と技能を修得した医師、歯科医師、臨床検査技師、看護師など、睡眠医療と研究を担う人材を育成する。 | 睡眠医療学科 |
| | 専門 | **臨床遺伝学**<br>Clinical Genetics | 近年、臨床医学分野でも各種遺伝関連の研究や診療が行われる機会が増大しているが、これらに必要とされる遺伝学的知識や経験を取得し、臨床遺伝医学的研究や遺伝カウンセリングが実施可能な人材を育成する。 | 臨床遺伝学科 |
| | 融合 | **母体発達医学**<br>Maternal Fetal Developmental Medicine | 母児の結びつき、脳内発達、母体の妊娠性の心身変化について多面的かつ領域横断的に探索を行う人材を育成する。 | 産婦人科学講座 |
| 内科系専攻 Internal Medicine | 専門 | **消化器内科学**<br>Gastroenterology | 消化管疾患、胆膵疾患に関して、基礎的知識と高い臨床研究能力を有する研究者を育成する。 | 内科学講座　消化器内科分野 |
| | 専門 | **肝 臓 学**<br>Hepatology | 肝臓の生理機能および肝臓病に関する高度の知識・技能を有し，肝臓に関する基礎的および臨床的な研究能力を有する研究者を育成する。 | 内科学講座　消化器内科分野 |
| | 専門 | **糖尿病代謝内分泌学**<br>Diabetology,Metabolism and Endocrinology | 糖尿病代謝内分泌学に関する高度の知識を有し、糖尿病代謝内分泌学領域の基礎的・臨床的研究ができる臨床研究者を育成する。 | 内科学講座　糖尿病・代謝・内分泌内科分野 |
| | 専門 | **腎臓・高血圧内科学**<br>Nephrology and Hypertension | 臨床医学の幅広い学識とリサーチマインドに富み、腎臓・高血圧性疾患の病態解明、高度診療及び予防に還元し得る研究を行うことのできる自立したphysician scientistを養成する。 | 内科学講座　腎・高血圧内科分野 |
| | 専門 | **循環器内科学**<br>Cardiology | 心臓血管疾患の診療・予防・研究ができ、更に、関連内科領域の診療も広く行える人材を育成する。内科認定医及び循環器専門医資格の取得を目指す。 | 内科学講座　循環器内科分野 |
| | 専門 | **呼吸器内科学**<br>Respirology | 呼吸器内科学の専門的な知識を有し、呼吸器疾患の病態解明及び新しい治療法の研究が遂行できる人材を育成する。 | 内科学講座　呼吸器内科分野 |
| | 専門 | **リウマチ・膠原病・アレルギー内科学**<br>Allergy and Rheumatology | 膠原病・アレルギー内科学分野において、基礎医学的知識と専門的診療経験とを併せ持ち、新しい診断法・治療法の研究開発が遂行できる人材を育成する。 | 内科学講座　リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野 |
| | 専門 | **血液内科学**<br>Hematology | 血液病学の高度の知識を有し、血液病学領域の病態研究や新規治療法の研究ができる臨床研究者を育成する | 内科学講座　血液腫瘍内科分野 |
| | 専門 | **神 経 学**<br>Neurology | 神経科学の専門的な知識を取得し、常に研究者としての自覚を持ち、診断・治療、更には社会福祉的な援助ができる神経内科医を育成する。 | 内科学講座　脳神経内科・老年科分野 |

別表1（第3条関係）

## ＜博士課程＞　専門医学領域　General Medical Research　／　融合医学領域　Interdisciplinary Medical Research

| 専攻 | 領域 | 分　野　／　コース | 人材育成の目標（目的） | 責任講座・分野 |
|---|---|---|---|---|
| 内科系専攻 Internal Medicine | 専門 | **小児科学** Pediatrics | 小児医学の広い領域に万遍なく対応でき、かつ、その専門分野の一つで高度医療の知識を有する臨床医及び研究者を育成する。専門診療・研究グループには、新生児、循環器、血液・腫瘍、神経、腎・泌尿器、消化器、感染・アレルギー、内分泌がある。 | 小児科学講座 |
| | 専門 | **皮膚科学** Dermatology | 表皮、真皮、皮下組織、メラノサイト、肥満細胞など皮膚を構成する組織、細胞による機能、病態を研究する人材を育成する。 | 皮膚科学講座 |
| | 専門 | **神経精神科学** Neuropsychiatry | 臨床精神医学、生物学的精神医学、小児精神医学、社会精神医学、精神病理学、災害精神医学、精神医学史、医学哲学・倫理などの知識を有し、精神医学の発展に寄与する臨床研究者を育成する。 | 神経精神科学講座 |
| | 専門 | **放射線診断学** Diagnostic Radiology | 放射線診断学を支える形態診断と機能診断の基礎を理解し、臨床医学のバックグラウンドに立脚した画像診断の研究者を育成する。 | 放射線医学講座 |
| | 専門 | **臨床検査医学・感染症学** Laboratory Medicine | ①臨床検査全般（検体検査、生理検査、超音波検査）、②予防医学（人間ドック・健康診断）、③呼吸器疾患（肺サーファクタントや気管支喘息）、④輸血・細胞治療学（自己血輸血と副作用対策）、⑤先天性凝固異常の遺伝子解析、⑥感染制御、⑦抗菌薬適正使用推進などについて幅広く研究できる研究者を育成する。 | 臨床検査医学・感染症学講座 |
| | 専門 | **総合診療医学** General Medicine | 疾患，臓器，年齢，性別に拘わらずに全身を全人的に診る知識と技能を有し，総合診療医学の発展に寄与できる研究者を育成する. | 総合診療医学講座 |
| | 専門 | **臨床腫瘍学** Clinical Oncology | 臨床情報・試料や癌細胞株を用いた新規バイオマーカーの開発や分子標的薬の候補化合物の抗癌作用の研究を通じて、基礎的・臨床的研究ができる臨床腫瘍医を育成する。 | 臨床腫瘍学講座 |
| | 専門 | **緩和医療学** Palliative Medicine | 緩和医療領域の知識、技術を習得し、臨床研究に従事できる人材を育成する。 | 緩和医療学科 |
| | 専門 | **放射線腫瘍学** Radiation Oncology | 放射線物理および放射線生物学の基礎に立脚し、臨床腫瘍学に精通した研究者を育成する。 | 放射線腫瘍学科 |
| 外科系専攻 Surgical Medicine | 専門 | **外 科 学** Surgery | 外科学の専門的知識・技能を有し、外科学に関する基礎的および臨床的研究を遂行できる人材を育成する。 | 外科学講座 |
| | 専門 | **脳神経外科学** Neurosurgery | 脳神経外科学の広い素養と脳循環に関わる高度な知識を習得し、脳神経疾患の克服に貢献できる人材を育成する。 | 脳神経外科学講座 |
| | 専門 | **心臓血管外科学** Cardiovascular Surgery | 心臓血管外科の一般的知識を習得し、臨床研究を行う研究者を育成する。 | 心臓血管外科学講座 |
| | 専門 | **呼吸器外科学** Thoracic Surgery | 呼吸器外科学の病態生理・腫瘍学を習得し、基礎的・臨床的研究を遂行できる人材を育成する。 | 呼吸器外科学講座 |
| | 専門 | **運動器傷病学** Orthopedic Surgery | 運動器疾患の病因・病態の知識を修得、知見を究明し、診療に活用できる人材を育成する。 | 整形外科学講座 |
| | 専門 | **形成外科学** Plastic and Reconstructive Surgery | 形成外科臨床に関する専門的知識を有し、問題点の抽出とそれを基礎および臨床研究につなげる能力を有する医師を育成する。 | 形成外科学講座 |
| | 専門 | **産婦人科学** Obstetrics and Gynecology | ①婦人科腫瘍における分子生物・病理学的研究に従事できる人材を育成する。<br>②妊娠・胎児・胎盤に関する分子生物学的・画像的研究に従事できる人材を育成する。<br>③生殖補助医療から加齢精神医学まで女性のトータルヘルスケアについて統合的研究に従事できる人材を育成する。 | 産婦人科学講座 |

別表1（第3条関係）

## ＜博士課程＞　専門医学領域　General Medical Research　／　融合医学領域　Interdisciplinary Medical Research

| 専攻 | 領域 | 分　野　／　コース | | 人材育成の目標（目的） | 責任講座・分野 |
|---|---|---|---|---|---|
| 外科系専攻 Surgical Medicine | 専門 | **耳鼻咽喉科学** Otolaryngology | | 耳鼻咽喉科学領域の基礎あるいは臨床研究者を育成する。 | 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座 |
| | 専門 | **頭頸部外科学** Head and Neck Surgery | | 頭頸部腫瘍を中心とした頭頸部外科学の基礎および臨床研究者を育成する。 | 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座 |
| | 専門 | **眼 科 学** Ophthalmology | | 幅広い知識を有し、研究に必要な手法や研究遂行能力を備えたリサーチマインドを持った眼科学領域の臨床医を育成する。 | 眼科学講座 |
| | 専門 | **泌尿器科学** Urology | **泌尿器コース** Urology | 泌尿器科学（癌、排尿障害、小児・女性泌尿器、性機能等）について高度な知識を習得し、基礎的・臨床的研究を遂行できる人材を育成する。 | 泌尿器科学講座 |
| | | | **腎不全コース** Renal failure | 腎不全（血液浄化、腎移植等）について高度な知識を習得し、基礎的・臨床的研究を遂行できる人材を育成する。 | |
| | 専門 | **麻 酔 学** Anesthesiology | | 手術患者の術前状態と手術により起こり得る病態を正確に評価し、適切な麻酔計画を立案し、実行できる医師を育成する。 | 麻酔学講座 |
| | 専門 | **救急医学** Critical Care Medicine | | “医の原点”であり、且つ、根源的医学と位置づけられる救急医療を体得し、的確な診断と処置を自ら実践できる医師を育成する。 | 救急・災害医学講座 |
| | 専門 | **災害医学** Disaster Medicine | | 大規模災害に対応するための医療的知識・技術を習得するとともに、地域と連携した災害時医療体制を構築し、評価することができる人材を育成する。 | 救急・災害医学講座 |
| | 専門 | **リハビリテーション医学** Rehabilitation Medicine | | リハビリテーション医学に関する高度な知識を習得し、基礎的・臨床的研究を遂行でき、且つリハビリテーション医学の発展に貢献できる人材を育成する。 | リハビリテーション医学講座 |
| | 融合 | **定量生物学** Quantitative Biology | | 医学・生物学的リサーチクエスチョンに対して、ゲノム・トランスクリプトーム・プロテオーム技術等を用いた数理統計解析から明確な答えを導き出せる人材を育成する。 | 医歯薬総合研究所　創薬・医療機器開発部門 |

| 受験番号 | | ※（　一般選抜　・　社会人特別選抜　）必ず○で囲むこと |
|---|---|---|

# 令和８年度秋入学　岩手医科大学大学院医学研究科入学願書
## ≪ 博 士 課 程 ≫

令和　　年　　月　　日

岩手医科大学長　殿

ふりがな
氏　名　　印

貴学大学院医学研究科博士課程に入学いたしたく、所定の書類を添えて出願します。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 生 年 月 日 | 昭和<br>平成　　年　　月　　日生（　　歳） | | | 本籍（都道府県） | |
| 志 望 分 野 | | 専　攻 | 分　野 | コース | 写真添付<br>(3cm×3cm) |
| | 第一志望 | | | | |
| | 第二志望 | | | | |
| 入 学 資 格 | （出身大学学部学科名）<br><br>昭和 ・ 平成 ・ 令和　　年　　月　　日　　卒業 ・ 卒業見込 | | | | |
| 県奨学金<br>受給の有無 | 有<br>無 | ① 医療局医師奨学資金　② 市町村医師養成修学資金　③ 岩手県医師修学資金<br>（有の場合該当のものに「○」を付すること。） | | | |
| 現 住 所 | 〒　　－ | | | | |
| 電 話 番 号 | | | | | |
| メールアドレス | | | | | |
| 入試・入学に関する<br>書類送付先<br>※現住所と異なる場合は記入<br>（実家・勤務先など） | 〒　　－<br><br>電話番号　（　　）―（　　）―（　　） | | | | |
| 保　証　人 | ふりがな<br>氏　名 | | | | |
| | 現住所 | 〒　　－<br><br>TEL　（　　）－（　　）－（　　）<br>携帯（　　）－（　　）－（　　） | | | |
| | 職　業 | | | | |

# 履　　歴　　書

| 区　分 | 年 | 月 | 日 | 記　載　事　項 |
|---|---|---|---|---|
| 学　歴 | | | | 高等学校卒業 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 職　歴<br>（研究歴含） | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 資　格 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 賞　罰 | | | | |

## 健康状況申出書

| | |
|---|---|
| 主　な<br>既往歴 | |
| | |
| 主　な<br>現在症 | |
| | |

# 志　望　理　由　書
## ≪ 博 士 課 程 ≫

| ふりがな | | 第一志望分野 |
|---|---|---|
| 志願者氏名 | | |

（本大学院医学研究科及び第一志望分野の志望理由を具体的に記載してください）

岩手医科大学大学院医学研究科

※パソコン等を使用して作成する場合は、本紙に直接または、本様式に準じ別紙（A4 版）に作成してください。

# 受　　験　　票
## ≪ 博 士 課 程 ≫

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 受験番号 | ※ | | | |
| 氏　　名 | | 生年月日 | 昭和<br>年　　月　　日生（　　歳）<br>平成 | |
| 志望分野 | 専　攻 | 領　域 | 分　野 | コース |
| 第一志望 | | | | |
| 第二志望 | | | | |

1.「※受験番号」欄以外は出願者にて楷書で記入すること。
2. 答案用紙には受験番号と氏名を明記すること。
3. この票は受験のとき必ず机上に置くこと。

入 学 検 定 料 領 収 済
医 学 部 教 務 課 長

・岩手医科大学大学院入学制度の概要

・長期履修学生取扱規程

※仕切り紙：緑色（グリーン）の用紙を使用

# 岩手医科大学大学院入学制度の概要

## 社会人入学が可能

本学大学院では**昼夜開講制**、**長期履修制**を採用しており、勤務しながら大学院に通うことが可能です。
卒後臨床研修医の入学も認めております。（学生は、原則として年間２単位以上を修得するように努める必要があります。）

## 昼夜開講制

夜間、土曜、休日及び夏期休暇期間等、社会人が時間を取れる期間に講義を設定。

※　夏期集中講義、冬期集中講義について、希望する方は所属する分野責任者にご相談ください。

※　実際の授業にあたって、社会人大学院生は勤務の関係でなかなかカリキュラムどおりにはいかないため、学生が教員に相談して授業時間を決めています。
必修科目は全ての回をビデオ録画し、都合で聴講できなかった学生はe-learningで聴講し、レポート提出を求めています。

## 長期履修制

職業に就いている者あるいは育児や介護等、修学に重大な影響がある事情を有すると本研究科が認めた者が、標準修業年限である４年を超えた年数（最高８年まで可）で学位を取得できるようにした制度です。
長期履修の開始を希望する年度が始まる３ヶ月前（最終学年は除く）までに申請していただく必要があります。
授業料は、通常の４年分の授業料を長期履修年数で割った額になり、長く在学しても授業料の総額が変わらないのが特徴です。

## ※過去３年間の大学院博士課程入学者の推移

| 年　　度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 |
|---|---|---|---|
| 一般選抜 | ０ | ０ | ０ |
| 社会人特別選抜 | ３０ | ２４ | ２３ |
| 合　　計 | ３０ | ２４ | ２３ |

# 岩手医科大学大学院の長期履修学生取扱規程

平成17年３月14日　制定
平成19年４月　１日　改正
平成28年４月　１日　改正
平成29年４月　１日　改正
令和６年11月　１日　改正

（趣旨）

第１条　この規程は、本学大学院学則（以下「学則」という。）第６条第５項の規定に基づき、学生が標準修業年限を超えた一定の期間にわたる計画的な履修（以下「長期履修」という。）を願い出た場合の取扱いに関し必要な事項を定める。

（対象）

第２条　学則第６条第４項の規定に基づき長期履修が認められる者（同条第１項に規定する標準の修業年限（以下「標準修業年限」という。）又は本規程第４条の規定により長期履修を認められた場合における修業年限（第６条により長期履修期間の延長又は短縮した場合にあっては当該短縮又は延長後の修業年限）の最終年次（以下単に「最終年次」という。）に在学する者を除く。）は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

（１）　職業を有し、又は有する予定の者（自営業等を含む。）であって、その職務の事情により著しく学修時間の制約を受ける者

（２）　育児、介護等に従事し、又は従事する予定の者であって、その事情により著しく学修時間の制約を受ける者

（３）　その他特別の事情（研究スケジュールの遅延等に起因するものを除く。）により著しく学修時間の制約を受ける者

２　前項の規定にかかわらず、最終年次における長期履修は、これを認めないものとする。

（申請手続）

第３条　長期履修を希望する者は、主科目責任者の承諾を得たうえで長期履修申請書（様式第１号）及び別に細則で定める長期履修を必要とすることを証する書類（以下「申請書等」という。）を学長に提出しなければならない。

２　前項の申請は、入学を志願する者で長期履修を希望する者にあっては入学願書提出時に、在学する者にあっては特段の事情がない限り、長期履修の開始を希望する年度の前年度の12月末（秋入学生は６月末）までに行わなければならない。

（許可）

第４条　長期履修の許可は、所属する研究科委員会の議を経て、学長が行う。

２　前項の許可は、年度を単位とする期間で行うものとする。

３　学長は、長期履修を許可した場合には、書面により申請者に通知するものとする。

（許可の取消し）

第５条　前条の規定により長期履修の許可を受けた者（以下「長期履修生」という。）が長期履修に関し虚偽の申請をしたとき、その他長期履修を行わせることが適当でないと認められるときは、学長は、所属する研究科委員会の議を経て、長期履修の許可を取り消すことができる。

（履修期間の短縮又は延長）

第６条　長期履修生がその許可された履修期間（以下「長期履修期間」という。）の短縮又は延長を希望した場合、学長は、１回に限りこれを認めることができる。ただし、特別の事情により学長が特に認めたときは、この限りでない。

２　第４条の規定は、前項の規定による長期履修期間の短縮又は延長の場合に準用する。

３　第１項の規定による長期履修期間の短縮は、標準修業年限に１を加えた期間を下回ることができない。

（長期履修者の早期修了）

第７条　長期履修の許可を得た者には、学則第６条第３項に定める早期修了の規定は適用しない。

（履修期間の短縮又は延長の手続）

第８条　長期履修期間の短縮又は延長を希望する者は、主科目責任者の承諾を得たうえで申請書等を学長に提出しなければならない。

２　前項の申請は、期間の短縮にあっては長期履修期間の終了する日の２年前（２年以上の期間を短縮しようとする場合は短縮しようとする期間に１年を加えた年数前）までに、期間の延長をしようとする場合にあっては特段の事情がない限り、その終了年度の前年度の 12 月末（秋入学生は６月末）までに行わなければならない。

（授業料）

第９条　学則第 32 条第１項の規定にかかわらず、長期履修生の長期履修開始年度以降の授業料年額は、次の表のとおりとする。

| 長期履修の開始時期 | 長期履修期間の区分 | 授業料の年額 |
|---|---|---|
| 入学時からの長期履修 | ア．長期履修期間（イ及びウを除く。） | 標準授業料総額（学則第 32 条第１項に定める授業料年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額をいう。以下同じ。）を長期履修期間の年数で除した額 |
| | イ．長期履修期間の短縮 | 標準授業料総額から長期履修期間短縮開始年度の前年度までに本条の規定により納入し、又は納入すべき額の総額を控除した額を短縮後の残余の履修年数で除した額 |
| | ウ．長期履修期間の延長 | 標準授業料総額から長期履修期間延長開始年度の前年度までに本条の規定により納入し、又は納入すべき額の総額を控除した額を延長後の残余の履修年数で除した額 |
| 在学中の長期履修 | ア．長期履修期間（イ及びウを除く。） | 標準授業料総額から長期履修開始年度の前年度までに学則第 32 条第１項の規定により納入し、又は納入すべき額の総額を控除した額を長期履修期間の年数で除した額 |
| | イ．長期履修期間の短縮 | 標準授業料総額から長期履修期間短縮開始年度の前年度まで学則第 32 条第１項又は本条の規定により納入し、又は納入すべき額の総額を控除した額を短縮後の残余の履修年数で除した額 |
| | ウ．長期履修期間の延長 | 標準授業料総額から長期履修期間延長開始年度の前年度までに学則第 32 条第１項又は本条の規定により納入し、又は納入すべき額の総額を控除した額を延長後の残余の履修年数で除した額 |

２　前項の規定にかかわらず、第５条（第６条第２項で準用する場合を含む。）の規定により長期履修の許可を取消された場合における取消後の授業料の年額は、次の各号のとおりとする。

（１）　標準修業年限に在学中である者

標準授業料総額から許可を取り消された年度までに納入した額を控除した額を、残余の履修年数で除した額

（2） 標準修業年限を超えて在学中である者

標準授業料総額から許可を取り消された年度までに納入した額を控除した額

３ 学長は、前２項の規定により算出した授業料の年額に千円未満の端数があるときは、各年度の額に千円未満の端数が生じないよう調整した額をもって、当該各年度の授業料の年額とすることができる。

（休学時の授業料）

第10条 長期履修生が休学した場合の休学期間の授業料は、前条の規定にかかわらず学則第32条第１項に定める額から休学を許可された月の翌月から復学を許可された月の前月までの月割計算による額の半額を免除する。

（退学時の授業料）

第11条 長期履修生が退学した場合は、第９条により算出された授業料年額を退学する年度に納入しなければならない。

（雑則）

第12条 この規程に定めるもののほか、長期履修制度の実施に関し必要な事項は、各研究科委員会が定める。

（規程の改廃）

第13条 この規程の改廃は、各研究科委員会の議を経て、学長が定める。

（事務）

第14条 この規程に関する事務は、各教務課が行う。

附 則

この規則は、平成17年４月１日から施行する。

この規則は、平成19年４月１日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年４月１日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年４月１日から施行する。

附 則

この規程は、令和６年11月１日から施行する。

# 岩手医科大学大学院の長期履修学生取扱規程運用細則

第１　岩手医科大学大学院の長期履修学生取扱規程第３条及び第８条に規定する長期履修を申請する場合に添付する証明書類は、次のとおりとする。

（1）　就業を理由として新規に申請又は期間を延長する場合

ア　勤務先からの就業（予定）証明書

・就労時間、就業場所が記載されていること。

・アルバイト等にあっては雇用予定期間が記載されていること。

（2）　育児を理由として新規に申請あるいは期間を延長する場合

ア　母子手帳等、出産予定あるいは出産したことを証明する書類

（3）　介護を理由として新規に申請あるいは期間を延長する場合

ア　介護認定書、あるいは介護を必要とすることを記した医師の証明書

イ　住民票等、被介護者との関係がわかる書類

（4）　その他修学に重大な影響を与える事情を理由として新規に申請あるいは期間を延長する場合

ア　その事由を明らかにすることのできる公的機関、病院等の証明書

（5）　就業を理由として長期履修を許可された者が期間を短縮する場合

ア　次のいずれかの書類

・退職したことを証明する書類

・就労を免除されたことを証明する書類

・就労時間あるいは就業場所が変わったことを証明する書類

（6）　育児又は介護を理由として長期履修を許可された者が期間を短縮する場合には、申請書以外の書類は特に必要としない。

附　　則

本細則は、平成28年４月１日から施行する。

様式第１号（第３条、第８条関係）

年　　月　　日

# 長 期 履 修 申 請 書

岩手医科大学長　殿

岩手医科大学大学院の長期履修学生取扱規程第３条（第８条）の規定に基づき、下記により長期にわたる履修を行いたいので、関係書類を添えて申請します。

課　　程：　修士課程　・　博士課程　　年

氏名（自署）：　　印

生 年 月 日：　　年　　月　　日

記

| | |
|---|---|
| 入 学 （ 予 定 ） 年 月 日 | 年　　月　　日　　入　学<br>入学予定 |
| 希 望 長 期 履 修 期 間 | 年　月　日　～　年　月　日<br>（ 新規 ・ 短縮 ・ 延長 ） (○で囲む) |
| 長期履修を必要<br>（または、短縮・延長）とする理由 | |
| 分野責任者の意見 | 署名：　　印 |